

アペルト10
横山奈美
LOVEと私のメモリーズ

2019年4月6日(土)～
6月30日(日)

若手作家の個展シリーズ「アペルト」

「LOVE」をテーマにネオン管を絵画にしたシリーズで注目を浴びる若手注目ペインター
日常生活にありふれた「LOVE」という言葉の意味を問い掛けます

展覧会名	アペルト10 横山奈美 LOVEと私のメモリーズ
会期	2019年4月6日(土)～6月30日(日)
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで)
休場日	月曜日(ただし4月29日、5月6日は開場)、5月7日(火)
会場	金沢21世紀美術館 長期インスタレーションルーム
料金	無料
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]

本資料に関するお問合せ

金沢21世紀美術館
事業担当: 野中祐美子 広報担当: 落合博晃、石川聡子
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会について

横山奈美(1986-)は、日々の生活の中で消耗されていくもの、廃棄されていくものをモチーフに絵画を制作しています。通常見向きもされない捨てられる運命をもった、いわば主役にならないものを主役にする事で、そのものに本来備わる意味や用途から離れ、これまでとは異なる見え方、横山によれば「そのものが持つ根源的な存在感や美しさ」を提示します。

本展は、近年、横山が精力的に取り組んでいる「愛とは何か」「美とは何か」というテーマと向き合った作品群で構成されています。愛をテーマに造形されたネオン管を絵画に描いたネオンシリーズは、ネオン管の主役ともいえる美しい光の部分と、裏側で見えないよう隠される器具や配線の部分とを同等に描き出すことで、理想や憧れとともに誤魔化せない、見られたくない部分をも顕在化させます。また、本展タイトルにも使われた木炭ドローイングのシリーズ作品《LOVEと私のメモリーズ》は、少女とラブという名の犬との思い出をつづった場面が描かれています。人間好みにどんどん品種改良が進む犬が短命であるというニュースをきっかけに、愛犬へと向けられた「愛(LOVE)」について考察します。

横山は、ちまたに流布し、あまりに軽々しく多用される「LOVE」という言葉への疑問や違和感、あるいは複雑で深刻な感情を作品に落とし込むことで、私たちの日常にありふれた「LOVE」という言葉の意味を問い掛け続けています。本展では約30点の油彩画とドローイングにより、横山の問い掛ける「LOVE」を通して、物事の本質について探求する機会となるでしょう。

作家ステートメント

LOVEという言葉は、世界中でポピュラーに用いられています。日本ではキリスト教の影響で広まり、多くの人々に知られるようになりました。

LOVEとは人を思いやること、人生の中で最も大切なものと捉えられており、この言葉は、映画や歌、アート作品の中でテーマとして多く扱われています。その他にも、Tシャツのロゴやキーホルダーなど身近にあるあらゆるものに用いられています。私たちはそんなLOVEという言葉に満ちた世の中で生きています。しかし、本当の意味で世の中はLOVEで満ちているのでしょうか。

私は魔法の呪文のように唱え続けられたこの言葉は、消耗し本来の意味が字体から抜け落ち、重みもなく空っぽになっているように感じます。

今回は、私の生きてきた中で見たLOVEにまつわる思い出を起点として、LOVEから抜け落ちた本質を探するための絵画を展示します。

作家プロフィール

横山奈美 (よこやま なみ)

1986年岐阜県生まれ、茨城県在住。2012年愛知県立芸術大学大学院油画・版画領域修了。主な展覧会に「日産アートアワード2017」(BankART Studio NYK/2017年)、「VOCA展2015 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」(上野の森美術館/2015年)、「手探りのリアリズム」(豊田市美術館/2014年)、「Draw the world-世界を描く」(アートラボあいち/2013年)など。主な受賞に、日産アートアワード2017 オーディエンス賞受賞(2017年)、第8回絹谷幸二賞 奨励賞受賞(2016年)など。



展覧会の特徴

日常生活にありふれた「LOVE」という言葉の意味

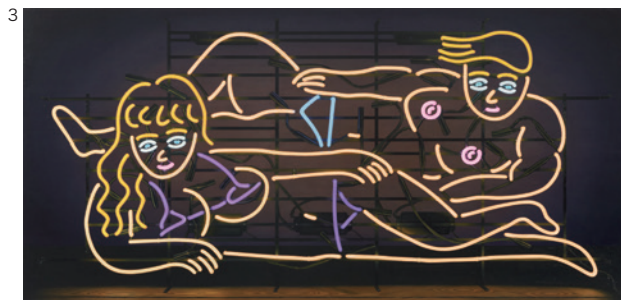
横山は近年、「LOVE」をテーマに作品作りをしています。そのきっかけになったのは、世の中にありふれた「LOVE」や「愛」という言葉への疑問や違和感。本来の意味から離れ、簡単に消費されていくこの言葉の意味を、今回展示する作品を通して私たちに問い掛けます。



《LOVE》2018
油彩、麻布
182 x 227.5 cm
撮影：若林 勇人

愛をテーマに描いたネオンシリーズで物事の表層と本質を表出

男女が横たわる姿や十字架、「LOVE」の文字をネオン管で作り、キャンバスに描く横山。そこには暗闇に浮かび上がるネオン管の光と後ろに隠された器具や配線が描かれています。ネオン管のまぶしい光の部分と、本来は裏側で隠されるはずのものを同等に描くことで、物事の見られたくない本質の部分を露わにし、見せかけにだまされないそのものが持つ根源的な美しさや存在意義を顕在化させます。



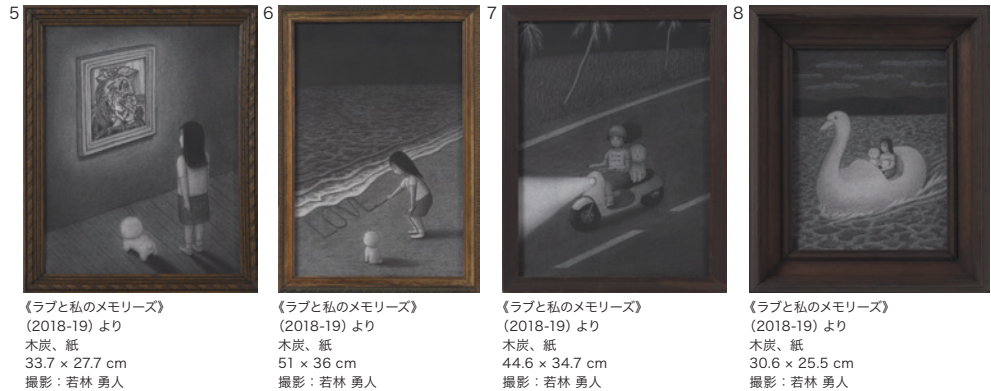
《Sexy Man and Sexy Woman》2018
油彩、麻布
194 x 400 cm
撮影：若林 勇人



《Cross》2018
油彩、麻布
46 x 46 cm
撮影：若林 勇人

少女と愛犬 LOVE が過ごした日々の記憶を描いた木炭画

横山は人間の好みによって品種改良された犬が短命だというニュースをきっかけに《LOVEと私のメモリーズ》の制作を始めました。本来愛すべき存在であるはずのペットが人間の都合で命を縮められている現実を前に、少女と愛犬が過ごしたささやかな日々を描いた優しいタッチの木炭画の作品を通して、「愛する」とはどういうことかを考察します。



《ラブと私のメモリーズ》
(2018-19)より
木炭、紙
33.7 × 27.7 cm
撮影：若林 勇人

《ラブと私のメモリーズ》
(2018-19)より
木炭、紙
51 × 36 cm
撮影：若林 勇人

《ラブと私のメモリーズ》
(2018-19)より
木炭、紙
44.6 × 34.7 cm
撮影：若林 勇人

《ラブと私のメモリーズ》
(2018-19)より
木炭、紙
30.6 × 25.5 cm
撮影：若林 勇人

活躍目覚ましい若手注目ペインターの近作を一望できる充実の個展

2017年に日産アートアワードオーディエンス賞を、2016年には絹谷幸二賞奨励賞を受賞するなど、横山は若手の登竜門とされる展覧会で近年数多く評価され、着実にキャリアを積み重ねている若手の注目作家です。今回の個展では、近年横山が最も関心を持ち取り組んできた作品群約30点を一堂に会し、横山の表現に迫ります。

「アペルト」シリーズとは

「アペルト」は、若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会のシリーズです。

金沢21世紀美術館は世界の「現在」とともに生きる美術館として、今まさに起こりつつある新しい動向に目を向けています。作家とキュレーターが作品発表の機会を共に創出し、未来の創造への橋渡しをします。国籍や表現方法を問わず、これまで美術館での個展や主要なグループ展への参加経験は少ないが、個展開催に十分な制作意欲を持ち、アペルト実施以後のさらなる飛躍が期待できる作家を紹介していくものです。

※「アペルト (aperto)」は、イタリア語で『開くこと』の意味。

関連プログラム

アーティスト・トーク

横山奈美が作品の前で自身の作品について語ります。

日時：2019年5月25日(土) 14:00～15:00 場所：金沢21世紀美術館 料金：無料

※詳細は後日Webサイトにてお知らせします。

広報用画像

画像1～8を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。画像お申し込みフォーム ▶ https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

[使用条件]

※トリミングをご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。